

むかし。

ある村のお百姓ひやくしやうたちが、村長そんちやうさんのところの法事によばれました。お百姓たちは、そんなことは初めてだったので、ごちそうの食べかたがわかりません。こまっつて、お寺の和尚おしょうさんに相談そうだんに行きました。

「和尚さん、和尚さん。わしらは、村長さんの法事によばれたんですが、ごちそうの食べかたがわかりません。和尚さん、教えてくださいださらんか」

和尚さんは、

「そうか、そうか。なに、心配しんぱいすることはないぞ。おれがするとおりにすればいい」といいました。

法事の日になると、みんなは、村長さんの屋敷やしきに出かけました。広い座敷ざしきに通されると、和尚さんは、お膳ぜんの前に座すわりました。お百姓たちも、めいめい、お膳の前にずらつと座りました。そして、和尚さんをじつと見ながら、和尚さんのするとおりにごちそうをたべました。

そのうち、和尚さんが、いもを取り落として、ころころ転ころがしてしまいました。それを見て、お百姓たちは、

「こりや、むずかしいもんじゃ」といいながら、いもを転がしては、はしでついて食べました。和尚さんは、それを見て、あわてました。そして、となりに座っているお百姓に、ひじでつついて合図あいずしました。すると、そのお百姓は、となりの人をひじでつつきました。こうして、つぎつぎにひじでつつきました。

和尚さんは、びっくりするやら、はずかしいやらで、尻しりをからげて逃げ出でしました。すると、お百姓たちも、つぎつぎに和尚さんのまねをして、尻をからげて逃げました。一番最後のお百姓は、ふんどしをするのを忘わすれていたので、大あわてで逃げに行ったということです。おしまい

村上郁再話

資料『半びのげな話』比江島重孝／未来社